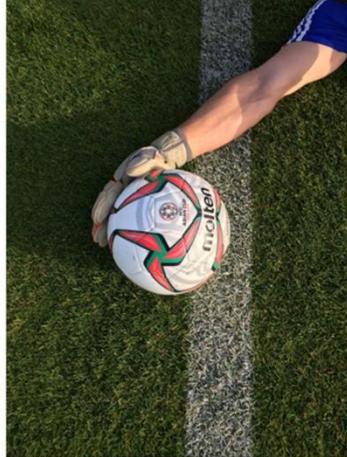


<レフェリング 豆知識>



ゴールキーパーが自陣ペナルティーエリアの外（タッチラインに平行な PA の境界線）でボールを写真に示すように手で扱った事象が、インプレー中に起きた場合、どのように判断しますか？

ボールは、ラインにかかっています。ということは、PA 内にあるボールということです。???

第 12 条 ファウルと不正行為 1. 直接フリーキック

2020/21 競技規則

- ・ハンドの反則（自分のペナルティーエリア内でゴールキーパーが触れた場合を除く）

2019/20 競技規則

- ・ハンドの反則（ゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内にあるボールを扱う場合を除く）

となっていました。今、皆さんがお持ちの競技規則と、昨年のもものでは条文が違うということです。

言葉は似ていますが、その意味は全然違います。

2019/20 の時は、写真の右のように PA の境界線にかかっているボールは、PA の中にあるものとして、自陣 GK は、ボールのどこを触ってもハンドにはなりません。すなわち、このような状態にあるボールは、一部でもラインにかかっているならば、ボール自体が PA 内にあるという認識でしたから、写真のように PA の外の部分を GK が触っても、それは認められました。プレーを続けられました。

しかし、**2020/21 からは変わりました。**

直接フリーキックの最後の「・」に、「ボール、相手競技者または審判員に対して物を投げる、あるいは、持ったものをボールに当てる」という条文から、接触ポイントがファウルの起こった場所と考えるようになり、PA 内のボールも位置関係を考えるようになりました。ですから、写真にあるように、境界線にかかっているボールでも、PA の外の部分を自陣 GK が触れると、それは、PA の外にあるところに触れたとして、ハンドの反則になります。このように、PA ラインにかかっているボールには、接触ポイントでハンドとなるかならないかが決まることになりました。この事象は、ハンドとし、接触のあった場所から、攻撃側の直接 FK で試合は再開されます。

< 前回競技規則テスト問題 > 今後、毎回実施します!!

問 1. アドバンテージの適用は主審の判断に任されているが、考慮する項目の一つである「試合の状況（雰囲気）」とはどういうことなのか具体的に 4 つ挙げなさい。

- ・ フィールドの状態が悪い
- ・ 競技者の技術レベルが低い
- ・ 得点差が開いた試合展開
- ・ ファウルが多く、報復行為が心配される試合

問 2. 主審がアディショナルタイムを 5 分取り、2 分（ランニングタイム 92 分）が経過したときに GK が負傷し、治療が完了するまでに 4 分かかった。主審は、試合再開後、何分後に試合終了の笛を吹くべきか。

- ・ 3 分

問 3. 「決定的な得点の機会の阻止(DOGSO)」を監視する上で、考慮しなければならない状況を 4 つ答えよ。

- ・ 反則とゴールとの距離
- ・ 全体的なプレーの方向
- ・ ボールをキープできる、または、コントロールできる可能性
- ・ 守備側競技者の位置と数

問 4. キックオフが行われるときに、競技者の足はハーフウェーラインを踏んでいないが、上半身が相手側ハーフにせり出していた。これは自分たちのハーフ内にいるといえるか？また、その考え方を示せ。

自分たちのハーフ内にいるといえる。オフサイドの判断を除き、競技者の位置は体や足が地面に触れている場所によって決まる。

< 競技規則テスト問題 >

各問について、主審の判断、処置、再開方法を説明しなさい。

- (1) 主審は、大きなチャンスとなる攻撃を妨害したと判断し、2 つ目の警告となる反則であったがアドバンテージを適用した。しかし、得点とはならず、ボールインプレーが続きその競技者がボールをプレーした。
- (2) ボールがインプレー中、ゴールキーパーが自陣のペナルティーエリア内で、手に持ったシンガードでボールがゴールに入るのをとめた。
- (3) ペナルティーキックを行う競技者が不正なフェイントをし、ボールがゴールに入った。(GK による反則はない)
- (4) ゴール裏でアップしていた交代要員が、自陣ゴールに入るボールを防ぐためにフィールドに入り、ペナルティーエリア内でヘディングして防いだ。

< 報告事項 >

◇JFL 主審候補者プール 評価試合開始 (1 級審判員への新昇級プログラム)

□期間は、最大 2 年間 (1 年で、昇級する場合もある)

□年間 10 試合の評価

- ・ プレミアリーグ 4 試合
- ・ 地域社会人リーグ 4 試合 (2 試合：所属地域 2 試合：他地域)

*HKFA 道リーグにも、6 月から他地域の審判員が主審を担当します

- ・JFA 指定試合（J エリートリーグなど）

□競技規則テスト

- ・4 択問題、映像テスト、記述テスト など

□アセスメントセンター（12 月）

成績上位者を、次年度 JFL 主審として推薦し、最終選考の場

◇「サッカー競技規則第 3 条―競技者：交代の数」における運用緩和について

4 月 19 日付 通達

- ✓ 2021 年 1 月 14 日付、日サ協発第 210002 号の文書にて『第 3 条-脳しんとうによる交代(再出場なし)の追加の試行』……医師が判断する「脳しんとう」に限っての交代枠の追加、限定的な試合、IFAB か FIFA に申請
- ✓ 「競技者の安全や安心を優先することによって競技者のチームが数的不利益を被らないようすべきであること」を最優先に達成すべき
- ✓ 生命に危険を及ぼす負傷等に限らず、プレーの続行が困難な負傷について、「サッカー競技規則第 3 条―競技者：交代の数」における運用緩和についての JFA 独自の運用
- ✓ 基準を定め、地域・都道府県サッカー協会ならびに関係団体等での競技会において、「プレーの続行が困難な負傷等による交代」を大会要項等に明記すること
- ✓ 多くのサッカーファミリーが安心・安全にサッカーを楽しめるようにとの意図で進める運用緩和

全国大会予選以外の大会で、各種別で競技会規程に明記
(骨折、熱中症、重傷 など)

審判員は、競技会規程に基づいて、交代の緩和を適用

<その他情報>

◇競技規則改正（今後、審判委員会から詳細が連絡されます。また、JFA HP に手も情報発信される予定です。）

競技規則変更の概要

主な変更と明確化の概要は、以下のとおりである。

複数の条に関わる変更

○競技規則に関する付記（全条に関わる）―メートル法

- メートル法とヤード・ポンド法の違いによる計測差が生じた場合、メートル法によるものに基づくと明確化した。

○第 4、5、12 条および VAR 実施手順―暴力的ではないが不適切な行為

- 暴力的ではないが、幾つかの不適切な行為は「攻撃的」、「侮辱的」または「下品」であり、退場に値すると考え、関係する箇所の表現を「身振り/身振りをする」から「行動/行動する」に変更した。

○第 1、2 および 4 条—FIFA クオリティプログラム

- FIFA クオリティプログラムに関する情報を「VAR 実施手順」の後に加え、詳細説明を条文から外した。

各条の変更（条番号順）

第 1 条—競技のフィールド

- ゴールポストとクロスバー(また、両ゴール)は同じ形状でなければならない。
- GLT の信号は、ビデオオペレーションルーム(VOR)に送信することができる。

第 6 条—その他の審判員

- FIFA 国際ビデオ審判員(VMO)のリストを新設した。

第 7 条—試合時間

- 試合が停止している時間のうちの「空費された」プレー時間について

第 11 条—オフサイド

- オフサイドかオンサイドかの位置を決定するために、第 12 条にある「どこまでが腕なのかの定義（脇の下の最も奥の位置）」を追加

第 12 条—ファウルと不正行為

- ハンドの反則：
 - 手や腕にボールが当たったとしても、すべてが反則になる訳ではない。
 - 競技者の手や腕の位置は、そのときの状況における体の動きに関連して判断する。
 - 「味方競技者」および「得点の機会を作り出す」を、ボールが偶発的に攻撃側競技者の手や腕に触れるハンドの反則から外す。
 - 「トリック」を用いて競技規則の裏をかき、チームメイトから意図的にパスされたボールをゴールキーパーが手で扱う反則をゴールキックについても適用し、トリックを企てた者は警告される(YC)。
 - フリーキックやペナルティーキックは、反則がチームリストに記載されている者が審判員に対して反則が犯された場合のみに与えられる。